

障がい者支援施設 熊本ライトハウスのぞみホーム 2022年度 事業報告

1 総括

2022年度においても、コロナウイルス感染症による猛威は収まることなく、夏から秋にかけては第7波、第8波が発生する事態となったり、行事や活動も制約される生活は継続されることとなった。そのような中で、職員と利用者の中でアイデアを出し合いながら活動や行事の企画・実施に取り組むことが出来た。施設内での利用者の活動については入所者の障がいの程度に合わせて4つのグループに分けそれぞれの活動に取り組んだ。それぞれの利用者の特性に特化した活動提供が出来たことにより個別的な関わりができるようになったと感じる。また、職員全体で利用者も情報共有を行なうことに努め、それぞれの支援方法等について、適切なアドバイスができるよう心がけた。

利用者の健康状態に大きな変化はないが、高齢による体調面の変化が見受けられるようになった。高齢利用者の対応については職員も不安を感じている部分があることから、支援方法の伝達や内部研修などを行いながら情報の発信・スキルアップに努めてきた。今後の施設の在り方については、今後の課題である。

恒例の行事関係についてはコロナの影響もあり施設内のみで実施した。地域貢献事業としてのふれあいランチは、月1回実施することができた。

2 主な取組とその評価

(1) 利用者中心の支援

- コロナ感染予防対策、環境整備
 - ・ リスクレベルに合わせて対策会議を開き、課題検討・情報発信に努めた。基本的動作（マスク着用、うがい等）に努め、利用者の罹患者はいなかった。
- 入所者の特性に合わせた個別活動
 - ・ 入所者の特性に合わせて4つのグループをつくり、それぞれのグループに分かれた活動を行っている。特性に配慮したこともありそれぞれのレベルに合わせた活動提供できるようになった。
- さんさんの定期的な利用について
 - ・ コロナ感染状況の影響もあり、外に出る機会が減り定期的な活用には至らなかった。
- 利用者支援強化の具体的取り組み・報告
 - ・ 利用者それぞれに支援検討を行い、職員それぞれが利用者の特性や情報を共有することが出来た。

重点目標	評価	実績等
利用者中心の支援	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ感染予防対策、環境整備 ・ 入所者の特性に合わせた個別活動 ・ さんさんの定期的な利用 ・ 利用者支援強化の具体的取組・報告

◎達成できた、○ある程度は達成できた、△（あまり）達成できなかった（以下同様）

(2)組織力強化

- 職員グループ会議の月 1 回実施
 - ・ 月 1 回のグループ会議は実施出来た。その結果利用者支援取り組みや担当利用者以外への関わりも増えてきたように感じる。人材育成にたいする意識も出てきており、グループ内での指導も行われた。
- リーダー会議の開催
 - ・ 4 つのグループのリーダーが検討会議を月 1 回以上（必要に応じて）開催し、支援方法、人材育成方法など、現状の課題を話し合った。積極的な組織運営に対する関わりも見受けられ、一定の成果は上がっている。
- 施設長による個別面談の実施
 - ・ 施設長による個別面談を年 2 回行った。
- 研修への参加
 - ・ サポートカレッジへの利用促進を行った。積極利用までは至っていない。外部研修外部研修等については、積極的に取り組んだ。

重点目標	評価	実績等
組織力の強化	○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員グループ会議の月 1 回実施 ・ リーダー会議の開催 ・ 施設長による個別面談の実施 ・ 研修への参加

(3)持続的な経営の安定化を図る

- 新型コロナウイルス感染症対応、災害時 BCP の定期的見直し・実践研修
- 新型コロナウイルス感染症対策対応 BCP については、感染状況拡大に伴い、感染対策委員会を必要に応じ開催し、都度対応を行った。災害時 BCP 見直しについては検討に至っていない。
- 虐待防止研修・身体拘束等の適正化のための委員会・研修
 - ・ 職員セルフチェックリストの実施を行った。
 - ・ 虐待防止委員会・身体拘束等適正化委員会：各年 3 回実施
- ICT 化情報収集
 - ・ ICT 化導入については、検討段階で具体的施策までは至っていない。

- 財務分析
 - ・ 財務分析の周知については、職員全体の理解までは至っていない。
- 労務管理の徹底
 - ・ 働き方改革による業務内容の見直しに着手し、継続した取組を行っている

重点目標	評価	実績等
持続的な経営の安定化を図る	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症対応、災害時 BCP の定期的見直し・実践研修 ・ 虐待防止研修・身体拘束等の適正化のための委員会・研修 ・ ICT 化情報収集 ・ 財務分析 ・ 労務管理の徹底

(4)地域社会への貢献

- 地域福祉活動としてのふれあいランチの開催、地域行事への参加
 - ・ 月に1回のふれあいランチを開催した。
 - ・ 地域行事への参加は、コロナの影響もあり出来ていない。

重点目標	評価	実績等
地域社会への貢献	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉活動としてのふれあいランチの開催、地域行事への参加

3 サービスの利用状況

- 生活介護・施設入所支援の利用率
 - ・ 2022年度の生活介護の利用率、施設入所支援の利用率については、昨年度を上回った。入院も少なく、コロナ禍の中、より一層自らの健康管理に配慮される入所者が多かった。今後については、高齢化する入所者も増えるため、加齢を見据えた支援を行っていきたい。
 - ・ 入所者については、年齢を重ねるごとに体調面での変化がみられるようになり、持病の悪化から通院を繰り返すことが多くなってきている。細かい変化を見逃すことなく、慎重に対応し、利用率の維持と新規入所者を今後受けて準備を行うようにする。

生活介護の利用率

(定員 40人)

	2020年度	2021年度	2022年度
開所日数	270日	270日	268日
生活介護者 (延べ人数)	10,532人	10,635人	10,680人
利用率	97.5%	98.8%	99.6%

施設入所支援の利用率

(定員 40人)

	2020年度	2021年度	2022年度
開所日数	366日	365日	365日
入所者(延べ人数)	14,276人	14,395人	14,518人
利用率	97.7%	98.5%	99.4%

利用者月別入院者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3
延数	0	0	13	0	0	0	0	0	0	8	0	3	24

4 苦情対応の状況

○ 苦情対応

利用者からの苦情 (内訳)	19件
● 職員に対しての苦情	12件
● 利用者に対しての苦情	6件
● その他の苦情	1件

➤ 主な内容

- ・ トイレに入っていた際職員が利用者呼び捨てにしている怖かった(職員に対しての苦情)
対応→謝罪、ミーティングでの職員への発信
- ・ 職員によっては依頼したことに十分に対応してくれず、自分であるように言われる。特に夜間帯は限られた職員しかいない為、そのように言われたら困る。依頼したことを職員が忘れてしまう事がある。(職員に対する苦情)
対応→謝罪、不快なことがあればその時に対応した職員に報告をして欲しいこと、その時に解決できるようにしたい事を伝える。
- ・ 職員に対しての苦情については口調や態度に関して特定の職員へのものが多かった。その都度職員への注意、全体職員への周知を繰り返した。
- ・ 深夜に同室者がラジオを聴いているので眠れない(利用者に対しての苦情)
対応→同室者代理で職員が謝罪

外部からの苦情

0件

苦情の内容については、日々の生活の中から発せられた内容になっている。また、苦情をあげる利用者についてはある程度固定しており、このことについては、発言、要求、訴えが可能な利用者からとなっている。従って、発言等が困難な利用者についても秘めた思いがあることは予想される。

私たちは、そのような全ての「思い」に寄り添い、向き合っていかなければならない。また内容については、利用者の性格が表れている部分がある。支援の中で理解いただきたい場面も少なからずあるが、それについても、十分な説明がなされなければ「苦情」という形で現れる。しっかり利用者の気持ちに寄り添うことで、1件でも多くの苦情をなくしていきたい。

○ ヒヤリハット・インシデントレポート・事故報告

●ヒヤリハット 118件

●インシデントレポート 17件

- ・服薬関係 3件 ・転倒及び落下 5件 ・衝突（受傷）1件 ・嘔吐 1件
- ・誤食 1件 ・誤薬 1件 ・落薬 1件 ・受傷 1件
- ・不適切支援 2件 ・放置（長時間）1件

●事故報告 なし

5 主な行事

月別行事

4月	お茶会
7月	七夕会
8月	キッチンカー
9月	キッチンカー 縁日
10月	園内運動会 ハロウィーン
11月	園内バザー
12月	クリスマス会 餅つき
1月	手巻き寿司
2月	節分 キッチンカー
3月	お疲れ様会

6 研修の実施状況

研修内容

4月	法人新任研修
	同公園後従事者養成研修
5月	ソーシャルラーニングサミット
6月	内部研修救急法

	九州児童福祉施設職員研修大会
	障がい者施設職員研修会 新任職員研修
7月	強度行動障害支援養成研修
	障害のある人を支援する防災研修会
	人権研修
9月	強度行動障害支援養成研修
	防災管理者研修
	サービス管理責任者更新研修
	OJT 研修
12月	交流分析（エゴグラム）を活用した成長し続けるチーム作りのヒント
	サービス管理責任者等熊本市ブロック研修
	VR 研修
	口腔ケア研修
	強度行動障害支援養成研修
1月	内部中堅職員サポカレ研修
	新型コロナウイルス感染防止対策研修会
2月	内部中堅職員サポカレ研修
	サービス管理責任者等専門コース研修 意思決定支援
	内部中堅職員サポカレ研修
	熊本県障がい者虐待防止・権利擁護研修
	熊本市防災協会 火災から「命を守る」避難
3月	交流分析（エゴグラム）を活用した成長し続けるチーム作りのヒント

7 施設整備等

本年度については特段大きな設備更新はせず、老朽化した備品や建物箇所の取り替え、修理等を行った。

- ・多目的センター横通路門扉設置工事（防犯のため） 164,230 円
- ・ガスフライヤー（老朽化による買い替え） 155,100 円
- ・動物園通り側擁壁補修工事 165,000 円
- ・めぐみホーム居室壁面クッション材取付工事 275,000 円

8 その他

◇ 防災について

防火避難訓練を年 3 回行った。利用者が素早い避難が出来るよう、避難経路の確認や的確な避難指示が出来るよう心がけた。まだまだ課題は多く、一つ一つを克服出来るよう今後も真剣に取り組んでいきたい。